

東京バッハ合唱団 月報

[第 639 号] 2015 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 639

September 2015

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

〈3.11 被災地訪問演奏=福島県・南相馬公演〉

速報!! 8月22日、「ゆめはっと」は感動に満たされました



第112回定期演奏会、終了

8月22日、「ゆめはっと」(南相馬市民文化会館)は感動に満たされました。2011年の<3.11>直後から構想を開始し、東京と福島をなんども往復しながら、双方の多くの方々を巻き込んで周到な準備をかさねてきた第112回定演・被災地訪問演奏会が、ついに南相馬市において、大成功裏に成就されました。

この日の到来を、東京にあつて共に夢見てくださり、ご協力とご支援を寄せてくださった皆さま、現地にあつて、開催をともに待ち望んで練習にはげみ、さまざまな企画をご用意くださった皆さま、本当にありがとうございました。

帰京して数日、まだ未整理ではありますが、会場でのアンケートのご回答と、直後に事務局あてメールをお寄せくださった関係者の方、参加者の方の感想を、「速報」の形で紹介させていただきます。

<会場アンケート>より

・遠くからお出でいただき、ありがとうございました。本格的なバッハを生で聞いたのは初めてです。演奏も、ソロの方々も、合唱の方々もとてもすばらしかったです。

・心が洗われる時を過ごせました。いつも原発のことが頭の隅にあり、気持ちが落ち着かないのですが、こころ静かにゆったりした気持ちになりました。ありがとうございました。今後の活動に期待します。

・安い料金で、すばらしい曲、ありがとうございました [前売 1000 円、当

●写真：上から順に、第1部 BWV92 終了(前列左からS光野、A佐々木、Cond大村、T鏡、B山本) / 第1部合同演奏(Cond永田恵子、Pf小林由香) / 第2部「みんなで歌いましょう」/ カーテンコール、賛助出演代表者登壇(左から櫻井事務局長、高倉副会長、藤澤会長、Pf小林、Cond永田、6人目は大村恵美子)。提供：竹内恵氏(パラビジョン)

日 1200 円]。

・東京バッハ合唱団の演奏会は初めて聴きました。とても素晴らしい歌でした。

・合唱を聴いたり、プロの演奏、独唱に触れるのは、あらためて良いものだと思います。

・本格的なバッハを初めて聴きました。南相馬へ来て下さってありがとうございます。私たちの悲しみ、苦しみは失せることはありません。二度とこのように私たちが苦しめる人災を起こすことがないよう、皆様もお力をお貸し下さい。

・バッハの深さをよく追究しています。ソリスト、合唱団、オーケストラ、とてもよく歌い込み、弾きこんでいます。

・とても良いコンサートでした。バッハ合唱団も、ハーモニーが美しく、実力が発揮できていたのでは。選曲（訳詞）が、この被災地にふさわしく、胸に迫るものがありました。ソリストの皆様も、良かったです。

・こころ洗われました。特にアンコールで一緒に歌ったとき、ジーンと来ました [BWV 147 のコラールと「ふるさと」：編集部]。ふるさと——帰るところは、天国のことかとも思いました。すばらしい歌声を、これからも多くの人に！

・3.11 を通して Bach に改めて出会えたような、すばらしいコンサートでした。昨日は白坂のアウシュビッツ平和博物館（福島県白河市）に行きました。こんなに美しく神に祈りを捧げることのできる人間が、そして普通の人びとが、なぜ、ナチスのもとで、あんなに残酷をなすうのか。神はそれもずっと見守って、なお人間を愛しているのでしょうか。

・この地においで下さっての演奏（会）、心よりお礼申し上げます。また機会がありましたなら、ぜひ聴かせて頂きたいと思います。心豊かになるコンサートでした。感謝!!

・懐かしい曲ありがとうございます。涙が出てきました。

・とてもすばらしかった。泣いてばかりいました。

・ソプラノ、アルト、テノール、バスのハーモニーがきれいでした。

・3.11 の被災地にこのような歌声が響いたことで、救われた感じがします。バッハ合唱団は初めてでしたが、荘厳な響きを楽しませて頂きました。ありがとうございました。

<ツアー関係者、参加者メッセージ>

パラビジョン・竹内 恵（録音・録画制作）

南相馬の演奏会のご盛会をお慶び申し上げます。ご用命を賜り、大切な収録の任に当たることができ、大変嬉しく存じます。

終演後は定刻までの撤収作業に追われ、きちんとし

たご挨拶ができず失礼いたしましたが大きな感動を味わい、また、思いがけない出会いもあったり、感慨深いものがありました。

弊社先代、柳沢 [*] が愛用したループタイを着用して演奏会に臨みましたが、モテット 3 番では、初めての DDR（旧・東ドイツ）公演（1983 年）の演目であったことを思い出しました。その公演の記録録音こそ、先代とともに取り組んだ弊社の初仕事でありました。

帰社後、収録素材をチェックし、映像・音声とも良好な状態であることを確認しました。そこで、取り急ぎ、まず、ご要望のありました、映像から静止画（いわゆる「写真」）をキャプチャしたもの、4 カットお届けします。

[*：柳沢清氏（故人）は、元テノール団員。ご提供いただいた 4 カットは、当月報の p.1 に掲出。今回の会場録音媒体の作成（CD/DVD/BD）と、当ツアー記録画像の制作をお引き受けいただいています]

石井 裕幸（同行応援団）

今般南相馬の地で、短時間ではありますが現地の方々と触れ合うことができ、改めてあの震災がもたらした重みを感じとることができました。これから何ができるか、何をすべきか深く考えて行動に移していきたいと思っています。

今後も何かお手伝いできることがございましたら、どうぞご遠慮なくお申し付けください。無論、目的次第ではありますが、今回の販売活動を通じ（より効果的に東京バッハ合唱団の活動を広めるための手段としての販売拡大）、幾つかアイデアが浮かんできました。

妻がこれからもお世話になると思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

[石井様は、ソプラノ団員・石井百合子様ご夫君。今回チャーターバスで同行されましたが、急きよ、会場での合唱団制作の楽譜や録音媒体の販売をお引き受けくださいました。深謝]

●新しいお仲間の紹介（前号から続く）

「月報」先月号、増ページ別冊に掲載した新規入団の方々のご紹介のつづきです。

<自己紹介：A 清水英子さん>

5 月 1 日付の朝日新聞の記事を見て入団させていただきました。「年齢・経験不問」というやさしいお心遣いのおかげで気持ちよく歌っております。こんなに集中して予習・復習したのは何十年ぶりのことかと我ながら驚いているところです。

素晴らしい合唱団にめぐり逢えたことを本当に感謝しております。これからもどうぞよろしく願い致します。

<自己紹介：A 藤根律子さん>

私は、朝日新聞の記事を拝見し、見学に。歓迎のうた、コラールの美しい歌声にとても感動致しました。福島の演奏会を目前にして、発声と音取りに冷や汗をかいています。練習を重ね、詞を大切に ころろに留めて歌えるように なりたいです。

[歓迎のうた……カンタータ第 147 番のコラール
(イエス わが喜び)]

<自己紹介：B 山本弘史さん>

2013 年の《マタイ受難曲》に参加させて頂き、偉大な作品の一端に触れることが出来ました。コラールは、日本語がとても合っており、歌いやすかったです。

また、このご縁で、荻窪教会で、自作の詩編歌の演奏会もさせて頂きました。お世話になりました。南相馬でも、バスの一員として、音楽を支える所存です。職業は、内科医で、教会ではオルガニストをしています。山形県東根市在住。

来年(2016 年)までの演奏計画

- ・ 2015 年末、クリスマス演奏会 (荻窪教会)
- ・ 第 113 回定期 (2016 年 5 月)
- ・ 第 114 回定期 (2016 年 12 月)

大村 恵美子 (主宰者)

南相馬での第 112 回定期演奏会を、感謝の内に終えた今、これからの合唱団の展望に立ちもどって、短くお伝えしておきましょう。

次の第 113 回定期演に関して、もうすでに 2 月号月報で、確定したばかりの公表が出ています。

■ 第 113 回定期演奏会

[日時] 2016 年 5 月 28 日 (土)、14:00 開演

[会場] 府中の森芸術劇場ウィーンホール

[公演タイトル] 「日常生活のバッハ」

[演奏曲目] (バッハの教会カンタータ 4 曲・日本語演奏)

- 1) カンタータ第 148 番《み名の栄光を讃えよ》
- 2) カンタータ第 40 番《地に来ませり 神のみ子》
- 3) カンタータ第 16 番《主 ほめ歌わん》
- 4) カンタータ第 192 番《ああ 感謝せん神に》

ほか詳細は、囲みの予告欄を参照してください。

「日常生活のバッハ」というタイトルについての趣旨は、月報 (2 月号) にも書きましたが、楽器編成としては、管楽器の活躍が目立ちます。

1) BWV 148 … トランペット、オーボエ・ダモーレ 2、
オーボエ・ダ・カッチャ

◆ 第 113 回定期演奏会・予告◆

「日常生活のバッハ」

2016 年 5 月 28 日 (土)、14:00 開演

府中の森芸術劇場ウィーンホール (東京・府中)

- ・ カンタータ第 148 番《み名の栄光を讃えよ》
- ・ カンタータ第 40 番《地に来ませり 神のみ子》
- ・ カンタータ第 16 番《主 ほめ歌わん》
- ・ カンタータ第 192 番《ああ感謝せん 神に》

[A] 佐々木まり子、[T] 鏡 貴之、[B] 山本悠尋

[オルガン] 草間美也子

[室内楽] 東京カンタータ室内管弦楽団

[指揮/訳詞] 大村恵美子

(チラシ、チケット等は、準備中です)

※本年 9 月 5 日より練習開始。合唱参加ご希望の方、事務局までお問合せください。

2) BWV 40 … ホルン、オーボエ 2

3) BWV 16 … コルノ・ダ・カッチャ、オーボエ 2、
オーボエ・ダ・カッチャ

4) BWV 192 … フルート 2、オーボエ 2

BWV 40 (クリスマス用)、BWV 16 (新年用) の 2 曲は、この時期 (降誕節) のためのカンタータとしては比較的に中規模のもので、ティンパニやトランペット群も含まない、独特なクリスマスと新年の切り口によるものです。被災地訪問演奏の夢をまず初体験できて、大規模な《クリスマス・オラトリオ》までには復さないながら、再演ものの、なじみの深い 2 曲をとりあげました。

BWV 148 は当合唱団では初演 (三位一体節後第 17 日曜日、秋)、楽譜も新規の制作です。BWV 192 は用途不明ながら、どんな祝祭の機会にもふさわしい小曲。いずれも、降誕節、新年の喜びから、落ち着いた人生の充実に至る時期を慶賀するにふさわしい名曲ぞろいです。冬から秋にかけての中間のとき、初夏に、1 年の「日常生活」を見渡してみます。

時期は前後しますが、来年 5 月のこの定演に先立って、今年の年末に、上記の曲目による (BWV 148 を割愛) クリスマス・コンサートを、会場の荻窪教会のご協力で計画させていただきました。練習開始から半年、合唱部分はしっかり出来上がっているはずです。

■ クリスマス特別演奏会

[日時] 2015 年 12 月 26 日 (土)、14:00 開演

[会場] 荻窪教会

[演奏曲目] (一部抜粋)

- 1) カンタータ第 40 番《地に来ませり 神のみ子》
- 2) カンタータ第 16 番《主 ほめ歌わん》
- 3) カンタータ第 192 番《ああ 感謝せん神に》

[演奏] 合唱/斉唱とオルガン

これが今年の最後の演奏会です。団員と後援会員・サポーター方との懇親を兼ねてのクリスマス祝会（&バザー）も、演奏後に予定されるでしょう。

次の2016年最初の行事は、上記のとおり、第113定演（5月28日、府中の森）に始まり、被災地訪問はおそらく2年続けてはないでしょうから、夏には、しばらく途切れていた野尻湖合宿・演奏会を復活させようと、目下8月上旬を目指して企画・交渉中です。

そして、これもまた、従来の定番だった春と、秋から年末の年2回定演の形に戻ることを期して、第114回の内容を次のように計画しました。

■第114回定期演奏会

○日時：2016年12月3日（土）、14：00開演

○会場：府中の森芸術劇ウィーンホール

○演奏曲目（カンタータ2曲とAMBの音楽帳）

- 1) カンタータ第14番《かたえに 主いませば》(STB、合唱)
- 2) 『アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳』から5曲ずつのコーラルとアリア
 - ・コーラル《満ち足りて 静まれ》BWV 512（混声4部合唱）
 - ・アリア《気晴らしに タバコを詰め》（「パイプの歌」）BWV 515a（T独唱／混声4部合唱）
 - ・アリア《かたえに 主いませば》BWV 508（S独唱）
 - ・アリア《わが心 なにゆえ嘆き》BWV 516（混声4部合唱）
 - ・コーラル《主よ 内なる御心を》BWV 514（混声4部合唱）
 - ・アリア《お気持ちは そっと》（「ジョヴァニーニのアリア」）BWV 518（T独唱）
 - ・コーラル《わが主 エホバ》BWV 299 / BWV 452（S独唱／混声4部合唱）
 - ・コーラル《わが魂の喜び》BWV 517（混声4部合唱）
 - ・アリア《思いみよ 鐘の音とともに》BWV 509（T独唱）
 - ・コーラル《いかづちの言葉》BWV 513（混声4部合唱）
- 3) カンタータ第82番《われ足れり》（B独唱）
- 4) カンタータ第140番《目覚めよと呼ばわる物見の声高し》（STB、合唱）

オーケストラは、しばらく小編成を余儀なくされていて、この第114回定演まで、大規模な編成のカンタータやオラトリオの選曲を控えてきました。予算に見合うほどの演奏会支出に耐える団員増加が、この頃までに実現するか、あるいは助成金や企業協賛、支援基金・後援会などの寄付金が増えるか、もっぱら経済的な理由にしたがって、オーケストラの増員の有無が導かれるのです。もしそれが定着するならば、以後はホールも、杉並公会堂のような大ホールも目ざせるし、《クリスマス・オラトリオ》の再演も可能となることでしょう。

各曲の説明は、紙数もありませんのでごく簡単に試みますと；

1) BWV 14 …これは、被災地訪問演奏用にと着想した時から、BWV 81と一緒に考えられたもので、嵐の最中に小舟の中で眠るイエスの、同じテーマによるものです。

2) 『アンナ・マグダレーナの音楽帳』からの10曲 …コーラル5曲は、どれも、浮ついていないカントール・バッハの家庭の雰囲気の基調をしのばせるもの。また5曲のアリアの中には、ユーモラスな（お気持ちはそっと伝えて）BWV 518や、〈タバコの歌〉BWV 515aなど、ぐっと日常生活にもとづいた世俗歌も含まれるのですが、〈かたえに 主いませば〉（BWV 508、ソプラノ独唱に割り当てる。前曲のカンタータBWV 14は《かたえに 主いませば》）や、〈わが主 エホバ〉BWV 299（BWV 452として『宗教歌曲集』にも収録）のように、愛妻アンナ・マグダレーナにささげるオマージュの名曲が中心をなしています。これらを紹介することで、バッハの家庭が私たちの眼前にずっと身近な存在になってくるに違いありません。この楽譜を、定演準備に合わせて出版する予定ですが、わが国でも華々しくヒットするように、と念願しています。

3) BWV 82 …これは、この《AMBの音楽帳》の中に一部分が入れられていますので、別に完成したカンタータ第82番（バス独唱用）の形で、オーケストラと共に演奏することにします。老シメオンが、神殿で生まれたての嬰兒イエスに出あい、もうこの上は何も望むことなく死んでゆけると、若々しい（！）舞曲風のアリアで歌いおさめる、人生達成の境地の歌です。

4) BWV 140 …バッハのカンタータの中でも最も傑出した名曲のひとつ。

第114定演当日（2016年12月）あたりには、わが国はどんな有様になっているのか、現在も一日一日と目まぐるしく激変している最中ですから、何とも見とおせませんが、人間よ、めざめよ（BWV 140）、との鋭い警告は、私たちにも強い感銘を与えるでしょう。

ただし、地球の滅亡を突きつけられての恐怖ではなく、つまらぬ俗事にかまけていないで、丘を越えて跳んで来られる花婿（救い主）を、手に灯りをもとして清い心で迎えよ（BWV 140/2）、という、つまり肉から霊への心の転回を、天上的なひろがりをもって呼びましてくるのです。殺し道具なんか、地上からみんな吹っ飛ばして、まっさらな心を一人ひとり備えましょう。この定演もまた、とりわけ被災地のためにささげられます（またまたあちこちに増加していることも大いに憂慮されますが）。

このあいだに何らかの選挙も入ってくるかもしれませんが、私も呼びかけます。生物を殺さない、小さなものを踏みつけずに大切に生かす、この一点を視点に据えて、今度こそ正しく選びましょう！